

An Examination of the Students' Teaching Plans on Children's Songs (1)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-11-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 市川, 礼子, 小島, 弥寧子, 駒宮, 典子, 鈴木, 真理, 高橋, 一行, 田中, ケアリー, 原, 牧人 メールアドレス: 所属:
URL	https://mu.repo.nii.ac.jp/records/637

学生による子供の歌指導案の考察 (1)

An Examination of the Students' Teaching Plans on Children's Songs (1)

市川 礼子 [*] ICHIKAWA Reiko	小島 弥寧子 [*] KOJIMA Mineko
駒宮 典子 [*] KOMAMIYA Noriko	鈴木 真理 [*] SUZUKI Mari
高橋 一行 [†] TAKAHASHI Kazuyuki	田中 ケアリー [*] TANAKA Carrie
	原 牧人 [*] HARA Makito

はじめに

本学の音楽関連授業は、1年基礎音楽、2年保育内容指導法（音楽表現）・声楽、3年器楽、4年音楽療法の授業が置かれている。この「子供の歌指導案」は、平成28年2年当初保育内容指導法（音楽表現）のピアノの授業で実施したものである。

「子供の歌指導案」については、学生が保育者・幼児教育者の立場で指導案を作成し、模擬保育を行った。模擬保育は、学生1人が保育者・幼児教育者となり、他の学生や教員は、園児となり指導に合わせて歌を歌うという形をとった。指導案の選曲は各自で決め、模擬保育を行った後回収した。

指導案の項目は、①選曲（拍子・調性・記号を含む）②指導に当たっての注意点やポイント③歌の指導内容④模擬保育を行った上での気づき⑤他領域との関連など5項目である。

上記の5項目は、学生が保育者となった場合を想定したもので、どんな曲を選曲し、楽譜には何が書いてあり、また、どのように指導し、その歌を発展させるかを考慮の上、指導案を作成したものである。

これらを項目ごとに分類し、子供の歌の指導法として分析し考察していきたい。資料が多いため2巻に分けた。ここでは「学生による子供の歌指導案の考察 (1)」として、①選曲について②指導に当たっての注意やポイント2項目について、まとめと考察を行う。

^{*} 武蔵野大学教育学部兼任講師 [†] 武蔵野大学教育学部

1 研究方法

1. 実施対象者

武蔵野大学2年生保育内容指導法（音楽表現）受講生84名

2. 実施期間

平成28年2学期（本校は4学期制の授業形態）6月～7月

3. 指導案回収

63名

2 指導案についての結果と考察

2-1 学生が選択した曲目、調、及び拍子の集計結果と考察

表1：63名の学生が選択した曲目、調、及び拍子の集計結果

タイトル		調	拍子	人数	タイトル		調	拍子	人数
1	アイスクリームのうた	ハ長調	4/4	1	20	しあわせならてをたたこう	ハ長調	4/4	1
2	あくしゅでこんにちは	ニ長調	2/4	1	21	しゃぼんだま	ニ長調	2/4	4
3	あめふりくまのこ	ニ長調	2/4	1	22	世界中のこどもたちが	ハ長調・ト長調	4/4	2
4	ありさんのおはなし	ハ長調	3/4	1	23	せんろはつづくよどこまでも	ト長調	4/4	1
5	あわてんぼうのサンタクロース	ハ長調	4/4	1	24	たなばたさま	ハ長調	2/4	1
6	うみ	ト長調	3/4	2	25	チューリップ	ハ長調・ハ長調	2/4	5
7	うれしいひなまつり	ハ短調	2/4	1	26	ちょうちょう	ハ長調	2/4	4
8	お馬	ハ長調	4/4	1	27	ドレミの歌	ハ長調	2/4	1
9	おかえりのうた	ハ長調	4/4	1	28	ドロップスのうた	ハ長調	2/4	1
10	おしょうがっつ	ハ長調・ニ長調	4/4	2	29	どんぐりころころ	ハ長調	2/4	3
11	おばけなんてないさ	ハ長調	4/4	1	30	とんぼのめがね	ハ長調	2/4	1
12	おべんとう	ハ長調	2/4	2	31	ながぐつマーチ	ハ長調	4/4	1
13	おもいでアルバム	ハ長調	6/8	1	32	春が来た	ハ長調	4/4	1
14	かわいいかくれんぼ	ハ長調	2/4	1	33	ふしぎなポケット	ハ長調	2/4	1
15	きのこ	ハ長調	2/4	1	34	ぼくのミックスジュース	ニ長調	4/4	2
16	こぎつね	ハ長調	2/4	1	35	めだかがっこう	ト長調・ニ長調	4/4	3
17	こたりのけっこんしき	ハ長調	2/4	1	36	やぎさんゆうびん	ハ長調	2/4	2
18	さよならぼくたちのほいくえん	ト長調	4/4	3	37	やまのおんがくか	ト長調	2/4	2
19	さんぽ	ハ長調	4/4	3	38	ライオンのうた	ハ長調	2/4	1

結果と考察

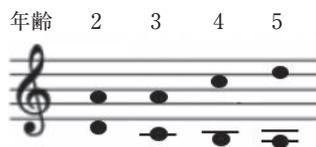
学生（63名）が模擬保育に選択した曲目を表1にまとめたところ、38曲が選曲されていた。複数選ばれた曲は、①チューリップ（5名）②ちょうちょう（4名）③しゃぼんだま（4名）④さよならぼくたちの保育園（3名）⑤さんぽ（3名）⑥どんぐりころころ（3名）⑦めだかの学校（3名）

名)であった。

選ばれた楽曲の調子の人数比は図1の通りであり、へ長調とハ長調を選んだ人が多かった。これは、子供の声域の発達を考慮した教育的見地から、子供向けの曲にへ長調やハ長調が多く使われていることが要因と考えられる。

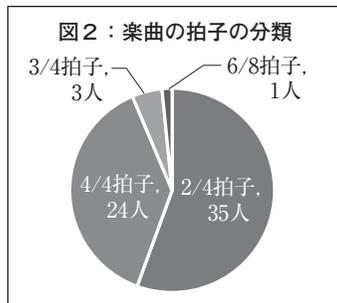
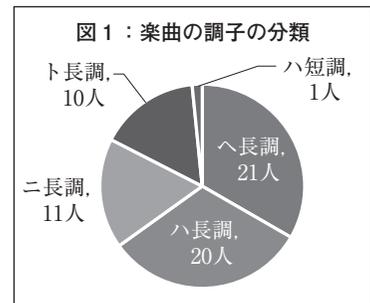
声域の発達において、ジャーシルドとピンストックの調査(正しく歌われた最高音、最低音)によると、譜例1に示すように、2歳児はレ～ラの音域、3歳児はド～ラの音域、4歳児はシ～ドの音域、5歳児はラ～レの音域で、年齢が

譜例1：声域の発達



すすむにつれて次第に声

域は広がっていくことが明らかになっている。(「新・幼児の音楽教育」(朝日出版社) p.29より)。学生が選択したへ長調の楽曲では、ド～レ(高)の音域、ハ長調ではラ(低)～ミ(高)の音域、ニ長調ではラ(低)～ミ(高)の音域、ト長調では、シ(低)～レ(高)の音域で曲が作られている。



楽曲の拍子の人数比は図2の通りであり、2拍子系を選んだ者がほとんどで、3拍子系を選んだ者はたった3人であった。この要因は、授業に使用された教材である、「こどものうた200(出版：チャイルド本社)」及び「続こどものうた200(出版：チャイルド本社)」に掲載されている400曲中、3拍子系の曲はわずか16曲しかなかったことが影響していると思われる。日本には元々3拍子のリズムのわらべうたは存在せず、3拍子の歌は少ないと思われる。3拍子は騎馬民族が多く持つと言われ、馬に乗る場合3拍子のリズムが感じら

れるということである。

また、学生たちの多くは、大学での1年間の授業を含め、複数年ピアノを習得し、様々な調や拍子での演奏を経験してきているにも関わらず、白鍵だけで弾ける「さんぼ」や「どんぐりころころ」等のハ長調や、指の運びが比較的容易な、「チューリップ」や「ちょうちょう」等のへ長調の曲が選曲の上で重視されている傾向があることから、学生たちにとって、ピアノを弾きながら歌い、そして歌唱指導もするという行為が、いかに難易度が高いかが分かる。1年生で習う理論の授業を、楽譜を見る上で生かして欲しいと思う。

実際に教育現場に立つ際には、とりあげる曲目について十分に理解し、練習を積み、さらに子供の声に合わせて移調して弾けるように取り組むことも大切である。また、3拍子系の曲も、2拍子系の曲にはないリズム感覚が身に付くことから、曲目は少ないが、積極的に教育に取り入れて欲しい。

(駒宮)

3 演奏に当たっての注意やポイントについて

3-1 歌の指導時の注意点やポイント

学生が考えた歌の指導時の注意点やポイントについては、以下の25項目に分類された。

1. メロディをはっきり、伴奏は控えめに弾く。
2. 歌い出しに合図をする。
3. 子供達のペースに合わせて進める。/子供達が歌いやすいテンポからはじめる。
4. 止まらず演奏を続ける。
5. 正しいリズムで演奏する。
6. 間違えずに正確に演奏する。
7. 曲想に合った、正しいテンポで弾く。
8. プレスをハッキリと示す。
9. 子供達の様子によってメロディのみを弾くか伴奏を弾くか選択する。
10. 強弱をしっかりとつける。
11. 歌いながら、歌詞を先行して言う。
12. 歌詞の内容が理解できるように指導する。
13. はっきり発音する。
14. 子供達に口の動きを見せる。
15. 演奏の際、子供達の方を向き、子供の表情をみながら歌う。
16. 最初にフレーズを区切って練習させる。
17. 保育者の後に、子供が続いて同じ部分を歌う。
18. 他の楽器を使用する。
19. 曲に適した曲調・曲想・表現で演奏する。
20. 手遊び・身体を使った表現の指導。
21. 曲を通じて、子供同士、または保育者と子供間で、コミュニケーションをとる。
22. 導入をスムーズに行う工夫をする。
23. メロディを教える前に、歌詞から先に教える。
24. 歌詞の内容に沿った演奏をする。
25. 模範演奏をわかりやすく示す。

※上記分類（25項目）に当てはまらなかったものは表3内に記載した。

表2：学生が考えた歌の指導時の注意点やポイントについての集計結果

曲名	保育者の注意事項			歌わせる上での注意事項		
	a. 楽譜について	b. 歌詞について	c. その他	a. 楽譜について	b. 歌詞について	c. その他
1 アイスクリームのうた	3. 8. 24.	14. 20.		1.		
2 あくしゅでこんにちは	5. 6.		15. 21.		20. 24.	21.
3 あめふりくまのこ	2.	20.	22.			
4 ありさんのおはなし	2. 3. (2名)		12. 17. 19.		24.	
5 あわてんぼうのサンタクロース	2.	20.	18.	16.	24.	
6 うみ	2. 3. 4. (2名) 7. (2名)		15.	16.		

7うらしいひなまつり	1. 2. 3.					
8お馬	2.	24.				20.
9おかえりのうた	4. 7.	13.	22.		12.	
10おしょうがつ	1. 6.	24.	15. 21.	3. 19.	5. 1. 24.	
11おぼけなんてないさ	2. 6. 9.	13. 14.	15.			
12おべんとう	2. 3. 9.	24.	13.	3.		
13おもいでアルバム	1. 8. 10.	12. 23.	25.			
14かわいいかくれんぼ	2. 8. 9.					
15きのこ	5. 7. 10.	13. 14. 24.	15.			
16こぎつね	3.	12. 24.				
17こどりのけっこんしき	2.		21. 22.	16.		
18さよならぼくたちのほいくえん	1. 2. 3. 5. 9. 10.	11. 13.	19. 22. 25.	16. (2名)	24. (2名)	
19さんぼ	2. 3. 4. (2名) 7. 19.		15.		24.	20.
20しあわせならてをたたこう		24.				20. 21.
21しゃぼんだま	2. 7. 8.	25. (2名)	15.	16. (2名) 5.	12. 24.	20.
22世界中のこどもたちが	3. (2名) 4.	12. 25.	15.			
23せんろはつづくよどこまでも	3. 4.					
24たなばたさま	3. 4. 9.	13.	20.			
25ちゅうりっぷ	1. 2. (3名) 3. (4名) 4. 8. 10. 19.	14. 16. 17.	2. 15. (4名) 22. 24.			
26ちょうちょう	1. (2名) 3. (4名) 8. 9. 10. 18. 19.	13.	22.		12. 19.	
27ドレミの歌	2. 3.	13.	15.			
28ドロップスのうた	2.	24.		10.	24.	
29どんぐりころころ	2. 9. 5.	12.	15. 20.	19.	24.	
30とんぼのめがね	1. 2. 3.					
31ながぐつマーチ	4. 19.	25.				20.
32春が来た			15.			
33ふしぎなポケット	3. 19.					
34ぼくのミックスジュース	2. (2名) 7. 8. 10. (2名)	24.			24. (2名) 20.	
35めだかのがっこう	2. 10.	11.	22. 25.		20. 24.	19. (2名)
36やぎさんゆうびん	2. 3. 7. 10. (2名)		4. 19. 24. 25.		24. (3名)	
37やまのおんがくか	2. 3.		21. 22. 15. (2名) 18.		24.	18.
38ライオンのうた	2. 4. 5. 6. 7.	20. 24. 25. (2名)				

結果と考察

表2から、保育者自身の注意事項について書かれた項目は232件（78%）、子供たちに歌わせる上での注意事項について書かれた項目は67件（22%）であった。割合を比較すると、圧倒的に保育者自身の注意事項が多い。その内容は、楽譜を理解した上で保育者がどのようなことに気を付けなければならないかを記述したもので、学生にとって弾きながら歌うという行為はそれだけで大変に難しいことから、注意の対象が子供よりも、まず第一に自分自身に向くことがうかがえる。

3-2 各項目の再分類

学生が考えた歌の指導時の注意点やポイントについて、3-2で示した各項目と、それに当てはまらなかったものを、【楽譜】【歌詞】【指導】【コミュニケーション及び、子供達への配慮】【リトミック】【その他】の6項目に再分類し、さらに【楽譜】の項目は〈テンポ〉〈リズム〉〈メロディ〉〈曲調・表現〉の4つに分け、合計9項目に再分類し、割合を算出した。

表3：学生が考えた歌の指導時の注意点やポイント再分類し、割合を示したもの

項目	項目に当てはまらなかった注意点	割合	
【楽譜】 〈テンポ〉 3.(28名) 7.(9名)	・3番は終わりの感じを出すため、テンポを遅くする。《ふしぎなポケット》	12%	48%
〈リズム〉 5.(6名)	・付点八分音符のリズムを上手に取れない場合は、全身を使ってリズムをとって身体で覚えさせて、定着するように工夫する。《あめふりくまのこ》 ・手拍子をしてリズムがわかりやすいようにする。《あわてんぼうのサンタクロース》 ・付点八分音符から十六分音符に繋がるリズム感を覚えさせる。《おべんとう》 ・前奏でははっきりリズムを示して、楽しく歌えるように促す。《かわいいかくれんぼ》 ・休符を手で叩く時は保育者が先に示した後に、真似をさせる。《しゃぼんだま》 ・歌いにくそうだったら、リズムをはっきり示して弾いて音を取りやすいようにする。《どんぐりころころ》 ・前奏の後半2小節をゆっくり弾き、八分音符のリズムを理解させる。《ほくのミックスジュース》 ・4分の2拍子のリズムを大切に。《ライオンのうた》 ・保育者が身体を揺らしてリズムに乗りやすいように促す。《かわいいかくれんぼ》	5%	
〈メロディ〉 1.(8名)	・フレーズを意識し、どこからどこまでが一つのまとまりなのか伝わるようにする。《アイスクリームのうた》	3%	
〈曲調・表現〉 10.(11名) 19.(14名)	・言葉で多くを伝えようとするのではなく、歌を通して全体像をつかめるようにする。《おべんとう》 ・子供達の元気に負けないよう明るく弾く。《しゃぼんだま》 ・元気にのびのび歌えるように、伴奏も元気に弾く。《せかいじゅうのこどもたちが》 ・ピアノは大きく弾く。《ちゅうりっぷ》 ・きれいな声で歌う。《やまのおんがくか》 ・スタッカートは元気よく、明るく弾く。《ライオンのうた》 ・堂々とハッキリ弾く。《うれいひなまつり》	11%	
【歌詞】 11.(2名) 12.(8名) 13.(8名) 24.(29名)	・リズムに気を取られすぎて、歌詞がおろそかにならないように気をつける。《お馬》 ・1番と2番の歌詞の違いに気をつける。《おしょうがつ》 ・歌詞を書いた大きな紙を用意する。《さんぽ》 ・「どんぶりこ」を「どんぐりこ」と言わないようにする。《どんぐりころころ》 ・歌詞を覚えた子は楽譜を見ないようにする。《めだかのがっこう》	17%	
【指導】 2.(27名) 16.(8名) 17.(2名) 22.(8名) 23.(2名) 25.(10名)	・ジェスチャーをまじえて指導する。《やまのおんがくか》 ・長時間ダラダラやらない。《とんぼのめがね》 ・最初は静かに聞いてもらうようにする。《ながぐつマーチ》	20%	
【コミュニケーション 及び、子供達への配慮】 9.(7名) 14.(4名) 15.(17名) 21.(6名)	・友達同士で握手する場合は、仲間はずれが起こらないよう2人でなくても大勢でなんとなく手を繋げば良いと話す。《あくしゅでこんにちば》 ・無理に歌わせようとしない。／歌う場所を変えてみる。／子供達の様子によってテンポを変えたり、スタッカートにして変化をつけることで想像力に刺激を与える。《お馬》 ・子供達のプレスに合わせてフレーズの長さを決める。《世界中のこどもたちが》 ・子供達の歌が聴こえるように音量に気をつける。《ちょうちょう》《やまのおんがくか》 ・フェルマータの部分は、子供達の方をよく見ながら口真似で（または一緒に歌って）、タイミングを合わせるようにする。／裏拍で入るところは「この音を聞いてから入ろね」と説明する。／サビの部分を少し速くする場合は「速くなるよ」等声をかける。／四分休符の部分は手で叩くなどして、「お休みだよ」と伝える。《ほくのミックスジュース》 ・慣れてきたら「だんだんだれがめった」で、子供の名前を呼ぶ。《かわいいかくれんぼ》	15%	

【リトミック】 18.(4名) 20.(14名)	・保育者も振り付けを行う場合には、右手だけ弾いても良い。《ライオンのうた》	6%
【その他】 4.(12名) 6.(4名) 8.(7名)	<ul style="list-style-type: none"> ・園での生活を思い出しながら聴いてもらう。／・歌いながら、自分の園での生活を振り返れるようにする。／・それぞれが卒園するという実感を持てるようにする。 ／・子供達の描いた絵に基づき、その思い出がよみがえってくるように、一人一人の歌い方を大切に、最終的にまとまりが出るように演奏する。《さよならほくたちのほいくえん》 ・歌う時期は、水遊びが気持ち良い季節（春・夏）。《しゃぼんだま》 ・保育者の声子供達に届くよう、大きな声で歌う。《世界中のこどもたちが》 ・前奏ははっきり聞こえるように弾き、音楽に集中させる。《かわいいかくれんぼ》 ・2段目から左手がト音記号→ヘ音記号になるので注意する。《どんぐりころころ》 ・大きく息を吸ってお腹から声を出させる。《やまのおんがくか》 	11%

結果と考察

表3から、割合の多いものの順に並べると、楽譜についての項目（48%）、指導についての項目（20%）、歌詞についての項目（17%）、コミュニケーション及び、子供達への配慮（15%）と続き、楽譜についての項目が大半を占める。歌の言葉やその内容より、楽譜上に書かれた情報についてのことに重きを置いているのは、この授業がピアノの演奏を主体に行うものであることが少なからず関わってくるだろう。大学入学と同時にピアノを始めたり、経験の少ない学生が多いことから、楽譜の理解と、正しく演奏することが最大の優先事項に挙げられることが考えられる。

また、楽譜についての項目をさらに細分化した結果、割合が多い順にテンポ（12%）、曲調・表現（11%）、リズム（5%）、メロディー（3%）と並ぶ。一番多く見られるテンポの項目では約4分の3の学生が「3.子供達のペースに合わせて進める/子供達が歌いやすいテンポからはじめる。」を注意事項として挙げていた。模擬授業を実施したことで、学生は保育の現場を想定し、子供達への配慮に意識を置かなければならないということを実感したことが見て取れる。

「新編 幼児の音楽教育」（音楽教育研究会編）に、「幼児教育要領の領域『表現』は『感性と表現の領域』とされる。（中略）感性は一つの能力であり、これが『表現』という行為を通じて幼児期にふさわしい発達をとげることをねらうものとして示された領域だと理解される。」とあるように、自身が演奏することの大変さからもう一歩踏み込んで、幼児の「感性」という能力を最大限に引き出し、育てる指導とは何かを、常に念頭に置いて考えることが望まれる。（小島・鈴木）

指導案用紙

番号 _____ 名前 _____

曲目（タイトル）	作詞者
	作曲者
楽譜にどんなことが記してあるか調べてみよう 1. 調性（調子） 2. 拍子 歌の教え方の計画（箇条書き）	子どもの歌の演奏にあたっての注意やポイント
他領域との関連の模索と考察	実際教えた上での気づき

参考引用文献

小林美実編「こどものうた200」2005.チャイルド本社 「続こどものうた200」2011.チャイルド本社
井口太「新・幼児の音楽教育—幼児教育・保育者養成のための音楽的表現の指導」2014.朝日出版社 p29.
p34. p38